NIE実践報告

1．タイトル：**新聞を活用した授業の研究と実践~道徳の実践を通して~**

2．学校名

愛媛県松山市立旭中学校

3．実践者名（代表者名）

石井龍治

4．学年

３年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳４８人

6．単元（本時の学習課題）名

感謝の心にこたえる　項目２-（６）

7．目標(狙い)

記事の内容を生徒が実感を持って受け入れることのできるタイムリーなテーマを取り上げ、助け合いや協力の根底にある感謝の心の大切さに気づき、それにこたえようとする心情を育む。

8．評価の視点

事前アンケートや、ワークシートの記述内容、授業中の話し合いの中で、ねらいとする「感謝の心にこたえる」気持ちが育っているかを評価する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

部活動を引退する時期に今まで部活動を続けてこられたのは誰のお陰かを振り返らせ、自分を支えてきてくれた多くの人々に感謝し、その人々の期待にこたえようとする心情を育てる。（１時間）

10. 単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

１　事前アンケートの結果を見て、自分や友達の体験をもとに考えさせる。
２　資料を読んで自由な意見交換をさせ、それをもとに話し合いを焦点化する。
○　記事の内容に共感し、自分自身を見つめ直すことができるようにする。
○　支えてくれた人たちに感謝をし、それにこたえようとする高校生の姿に迫り、ねらいとする価値を明確にする。
３　「ある高校生の談話」を読み聞かせ、その体験談から感謝の心を持って社会のために貢献しようとする生き方に共感させる。
４　今後の自分の生き方について考えさせる。

11. 児童・生徒の反応、感想・意見

- **周囲の人たちがいたからこそ、野球ができたのだと思います。**
- **「絆強く」を聞いて、この原町高校野球部の仲間との絆や周囲の人々への思いなどに感動した。**
- **僕も何かを続けられるということに感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思った。**

12. 成果と課題

- **タイムリーな記事を取り上げたので、記事の内容を生徒が実感を持って受け入れることができた。**
- **取り上げた記事の内容について、関連する内容やその後の情報も後日の新聞に載っているなどして、情報が豊富だったので、授業が組み立てやすかった。**
- **ねらいとする道徳的価値に迫るためには、資料の選定、提示の方法等、さらに工夫の余地がある。**